

平成二十三年卒業式式辞

寒さの厳しかった今年の冬でしたが、少しずつ日射しに春の気配がし、冬から春へと、キャンパスにも春の花の時期が始まろうとしています。

本日、この岐阜県立国際園芸アカデミーを卒業してゆく二十四名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

ご参列の保護者の方々にも、心よりお祝いを申し上げます。

また、この度はご多忙にもかかわらず、岐阜県議会議員の先生方をはじめ、多数のご来賓の方々のご臨席を賜り、ここに岐阜県立国際園芸アカデミー卒業式を挙行できますことは、大きな喜びでございます。皆様方には平素から本校の教育に多大なご支援、ご協力を賜っておりますことに、この場をお借りまして改めて厚く御礼申し上げます。

さて、卒業生の皆さんは二年前に大いなる志をもって、花と緑のエキスパートになるべく当校に入学されてこられました。その入学式で私が式辞で述べたことを覚えておられるでしょうか。そこでは、花の役割について、明治の美術評論家、岡倉天心の言葉を引用するとともに、最初に花を使ったネアンデルタール人を取りあげました。亡くなった人への気持ちやネアンデルタール人が花で表現したこと、花が人の生活にうるおいをもたらし、人生を豊かにしてくれるなくてはならないものであることを述べたと思います。皆さんはこの二年間で、花のもつ重要な役割を確認できたでしょうか。そこで取りあげたネアンデルタール人ですが、ヨーロッパを中心に分布していましたが、約3万年前に気候変動により絶滅したとされています。その頃にはアフリカを起源とする私たち現生人類ホモ・サピエンスもヨーロッパに入っていました。ホモ・サピエンスはそこでは滅びませんでした。その大きな理由として、ホモ・サピエンスだけがもつ大きな特徴が明らかにされています。それは、集団と集団との交流、共に助け合って生きる社会的ネットワークをもっていたからだといわれています。このような助け合うネットワークは、昨年の東日本震災でも話題になった「絆」にも相当すると思います。皆さんはこのアカデミー在学中によいネットワークを築くことができたでしょうか。在学中に築いたネットワーク、人とのつながりはこれからの人生の大切な糧となり、困難に直面したときに大きな支えになるはずです。

ここで社会への門出にあたり、手元にも示しました、これから述べる言葉を捧げたいと思います。

その言葉は、「If you live each day as if it was your last, someday you. I most certainly be right」です。これは皆さんもよくご存じのアメリカのiPodやiPhoneを開発した有名なアップル社の最高経営責任者で、昨年亡くなられた

ステイブ・ジョブズ氏が2005年のスタンフォード大学卒業式の式辞で述べられた一節です。この言葉の意味は「毎日を人生最後の日であるかのように過ごしてみなさい。そうすれば、いつかあなたが思った通りになるはずです」ということです。彼はこの言葉を十七歳の時に本で読み、それから三十三年間、毎朝鏡に映る自分に問いかけ過ごしてきたということです。もし、今日が人生最後の日だとしたら、今日やろうとしていることが本当にやりたいことだろうか？と問いかけ、答えがノーであれば、何か変える必要があるということです。皆さんもジョブズ氏のような気持ちをもって、現状に満足することなく、自分の能力と感性を信じて上を目指してくれることを願っています。

最後にあたり、ここをめ得太く皆さんが卒業を迎えられるのは、日頃の努力のたまものであるのはもちろんですが、同時に周りで支えてくれたご家族と教職員のお陰でもあることも伝えておきたいと思います。その感謝の気持ちを忘れず、それに報いるのは、これからの人生において社会に還元してゆくことに他なりません。そのことをくれぐれも忘れないでください。

以上、皆さんの将来に幸多きことを祈って、はなむけの言葉といたします。

平成二十四年三月吉日

岐阜県立国際園芸アカデミー 学長 上田善弘